

## DIVERSITY



ダイバーシティ 2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

## 令和6年度前期事業活動報告

令和6年4月～令和6年9月までの活動内容をご報告します。

## 夏休み期間中の学内一時託児を実施

令和6年8月5日～9日

長岡技術科学大学では、この夏5日間にわたり「学内一時託児」を実施し、常勤・非常勤などの雇用形態にとらわれず、広く同大に勤務する教職員の子ども（小学生）たちを受け入れました。昨年度に続き2回目の実施となる今回は、延べ81名の児童を預かり、利用した教職員からは今後も継続実施を望む声が多く寄せられました。



▲テクノミュージアムで最新技術を体験

託児期間中、児童たちは機械に囲まれた工作センターの見学や展示スペース「テクノミュージアム」で工学系の大学ならではの最新技術にふれ、「珍しい体験ができて楽しかった」との声も聞かれました。また、長岡崇徳大学による出前授業「高齢者疑似体験」や、(株)サカタ製作所の協力による「おいしいかき氷機の実演」といった地域の大学、企業との連携による企画も行われました。その他にも、同大学を知る機会として「研究室スタンプラリー」や「学長室訪問」など、様々な活動を実施。希望する児童は保護者（教職員）の職場へ「逆お迎え」を行い、児童が親の仕事を知るきっかけとなりました。



さらに、教職課程履修生や女子学生ネットワーク「フィーカ」等の学生が有償ボランティアとして積極的、主体的に協力し、児童の自由研究のアイデア提供や夏休みの宿題のサポートなどを行いました。参加した児童からは「学生ボランティアさんが優しくかった」「友達ができて嬉しかった。来年もまたここで、みんなに会いたい」などの声が寄せられ、充実した時間を過ごしました。

(株)サカタ製作所の協力によるかき氷機の実演▶

## 地元で働く「20代、30代の集い」を開催

令和6年5月10日



「えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会」の企画として、新潟県内の企業等で働く20代、30代と長岡技術科学大学の学生を対象に「20代・30代の集い」を開催し、20機関から42名が参加しました。地元で働く若者と学生が自身の思いや地域の課題などを共有し、組織の垣根を超えて、横のつながりを持つきっかけとすることを目的に実施しました。

参加者たちは、「チームビルディング研修（講師：たかの社会保険労務士事務所 高野真規氏）」とランチ交流会、ワールドカフェ形式によるグループディスカッションを通して互いに親睦を深め、女性技術者や女性社員等を含む地域人材の交流の機会となりました。

## 介護準備セミナーを開催

令和6年5月23日



将来、高齢の親の介護を担う可能性がある教職員・社員を対象に、仕事と介護とを両立させるためにはどのような準備をしておくか、介護の始まりから終わりまでにわたるビジネスケアラーとしての心構えや、在宅介護や支援体制についての基礎知識も含めて学ぶ機会として開催しました。

医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長の佐々木 淳氏を講師に迎え、「高齢期をどのように捉え、どのように生きるか」や「社会とのつながりの大切さ」など、データを交えながらわかりやすくご講演いただきました。教職員、企業等の関係者など

約 80 名の参加があり参加者からは、「社会的関係の豊かさが、健康と深くかかわっていること。また親の延命治療等への希望の探り方など、親の老化に伴い自分が直面している問題について、タイムリーな内容だった」などの声がありました。

## 男性の育児休業取得促進セミナーを開催

令和6年6月14日



令和6年6月14日、男性裁判官として日本で最初に育休を取得した平野哲郎氏（立命館大学教授）を講師に招いた「男性の育児休業取得促進セミナー」を実施しました。

本セミナーは、大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンターとの共同主催によるもの。平野教授は、裁判官として在職していた2001年に日本で最初に育休を取得しました。育休のことを「育児休暇」の略称と勘違いしている人々が数多くいることに対し、略さずに「育児休業」としっかり伝えていくところから始めなければならないと苦言を呈しました。裁判所と大学は、一見すると縁遠い職場環境です。

しかし、裁判所も大学も属人化しやすいという共通点があることを指摘し、そのような環境下で育休を取得するためには「周囲の理解」が必要不可欠であると述べました。セミナー後のアンケートからは、「いま放送されているNHK朝の連続テレビ小説を見ているが、あの頃と認識がほとんど変わっていない」、「育児をこれからは頑張りたいと思った」、「学びになったことはもちろん、大変面白く平野先生のご経験を聴けた」など、多くの感想が寄せられました。

### パパの育休 体験記

長岡技術科学大学 教員 Yさん（仮名）

「男性教員が数か月も育休を？」という声もある中、私は双子の育児のために思い切って育休取得に踏み切りました。前例がなかったため、制度面での準備には少々苦勞もしましたが、周りの先生方や男女共同参画推進室の温かいサポートのおかげで、無事に育休を取得できることになりました。

さて、いざ育休が始まってみると、これが予想以上の大冒険でした。第1子の経験があったので「育休中も少しは仕事ができるかな」なんて考えていましたが、双子育児の現実私の甘い考えを完全に覆してくれました。特に退院直後は、夫婦で24時間体制の奮闘が続き、育休を取得していなかったら、とても乗り切れなかったと思います。

ただ、日々の努力が実を結び、育休の終わり頃には少しずつ生活にリズムが生まれてきました。これから育休取得を考えているパパさんたちへ。「男性の育休取得推進」という言葉を最近よく耳にしますが、もう「できれば取得」なんて考える時代は終わりつつありますよ。育休は自然に取得するものとして考えていきましょう。それと、育休中は「仕事も頑張ろう！」という意気込みは程々にして、かけがえのない育児の時間を思い切り楽しんでください。きっと、素晴らしい経験になるはずですよ。





長岡市内の女子中学生を対象とするプログラミング講座「Waffle Camp ホームタウン in 長岡」を開催しました。本講座は、IT分野のジェンダーギャップの解消に向け、IT分野におけるスキルの提供とキャリア支援を目的に、次代を担う女子中学生が理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択することができることを目的とするものです。昨年に引続き2回目の実施となる今回は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、対面16名、オンライン1名、計17名の女子中学生が参加しました。



長岡市、長岡高専の共催のもと、NPO法人Waffleがウェブサイト制作を学ぶ講座のほか、現役女子大学生メンターによる進路講演会を実施しました。

受講者はサイト制作の基礎となる「HTML」や「CSS」の書き方を学び、「好きなこと」や「推し」など思い思いのテーマで楽しくwebサイトを作成しました。講演会では、現役女子学生メンターから、自身の進路選択や学生時代の生活などをお話いただき、受講者がこれからの進路選択を考えるための一助となりました。

## シンポジウムのご案内

“生きづらさ”を診る産科医が語る  
「いのち」とジェンダーの話

12月13日(金) 14:00-16:00

対面とZoomによるオンライン配信の  
ハイブリッド形式

講師

中井 祐一郎氏 (産婦人科医)

大阪市立大学医学部助手、川崎医科大学医学部  
准教授などを経て現在は、広島県内の病院に勤務  
著書に「生きづらさを診る産婦人科学」(中外医学社)  
日本産科婦人科学会 産婦人科専門医  
日本周産期・新生児学会 暫定指導医  
日本超音波医学会 専門医・指導医  
母体保護法指定医



ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム

“生きづらさ”を診る産科医が語る

「いのち」とジェンダーの話

妊娠、出産、中絶という女性特有のライフイベントが生じさせる“生きづらさ”の実態を踏まえ、いのちとジェンダーについてどのように考えたらいいか現役の産婦人科医が語ります。

日時：令和6年12月13日(金)14:00~16:00

会場：長岡技術科学大学マルチメディアシステム棟  
会議室または Zoom

講師：産婦人科医 中井祐一郎氏

申込み：12月10日(火)までに右の

QRコードからお申込みください。



## Column WLB相談室から

### 【積極的休息と消極的休息】

休息には「積極的休息」と「消極的休息」の2種類があることをご存知ですか。2つの休息の違いを意識することは、心身の健康維持に重要です。積極的休息とは、運動や趣味、友人との交流など、意図的にリフレッシュを図る能動的な休息で、一方、消極的休息は、何もせずにただ休む、リラックスすることです。多忙な日々の中で、つい消極的な休息に頼りがちですが、積極的休息を取り入れることで、次の活動へのエネルギー充足を効率的に行えます。とはいえ、高度の疲労を感じたときは受動的で、静かな休息が必要な時もあります。スポーツの秋、読書の秋…「積極的休養」と「消極的休養」をバランス良く取り入れていきましょう。

WLB相談予約(学内専用)は以下URLから

<https://forms.gle/C3PwVECuZXhW16Bw7>

電話：0258-47-9911

(長岡技術科学大学内線 9911、2170)

長岡技術科学大学ダイバーシティ研究環境推進部門  
(3機関連携事務局)

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL: 0258-47-9911 (内線 9911・2170)

Email: danjo@jcom.nagaokaut.ac.jp



編集後記：

楽しみにしていた学内一時託児が無事終了！アトラクションも多く濃い1週間でした。ご協力頂いた先生、職員の皆様、ありがとうございました。また来年・・・！

(令和6年11月)